

第67回埼玉県美術展覧会審査評

【第3部 彫刻】

審査主任 おりもと 織本 わたる 亘

第67回県展の彫刻部は、昨年度に引き続き出品数、入選数共に昨年度を上回りました。彫刻とは何か、何を伝えたいのか、作品から何を感じるのか、作者の声を作品から感じとる鑑査及び審査になりました。受賞者の中には、昨年の受賞者4名が選ばれ、制作の意力を感じる作品が選ばれたと思えます。惜しくも受賞しなかった作品にも成長を感じさせる秀作もありました。惜しくも落選された方は、会場で何が足りなかったか探してみてください。

・埼玉県知事賞

おも
「想い」

よしだ ただぶみ
吉田 忠文

昨年の埼玉県美術家協会賞に続き、本年もすばらしい力作です。手を後ろに組み、両足で立っている姿は、体が伸び、観ていてすがすがしさを感じます。時間をかけ彫り上げた作者の想いの詰まった時間を感じさせる力作だと思います。

・埼玉県議会議長賞

「^{おも}思う」

^{おくだいら}奥平 ^{ひより}陽和

力を抜いた穏やかなフォルムの中に作品のテーマが効果的に表現されている作品です。うなじから背中、腰にかけて流れる量が曲面で美しくつながり、よく観察された脚部で折り返されています。向かって左側に重心を置いて、上体をひねるムーブマンから優れた造形力を感じることができる力作です。

頭部の形態と表現、量と量の谷間の表現にもう少ししっかりとした考えをもって制作するとさらに良くなると思います。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「^{りりー} ^{ほわいと}lily white」

^{ふじもり}藤森 ^{みほ}美帆

情緒的な表情が魅力的な胸像の彫塑作品となっています。素材は石膏ですが、薄く着色を加え、形が白飛びしないように落ち着かせています。シンメトリーな中にも変化を感じさせようと試行錯誤をしているのは大変良いところです。右肩から背中にかけての形の整理にもう少し時間をかけたいところです。

昨年の埼玉県美術家協会賞を受賞した作品は、テーマ性が強く新たな彫刻世界の可能性を秘めていましたが、その傾向とは一変し、アカデミックな作品を出品してきました。これは、彫刻をより深く学ぼうとする意欲や自身の描写力の挑戦なのか…。いずれにしてもこれだけ創れるということは今後の作品が楽しみです。

・埼玉県美術家協会賞

いわたい えむ
「IWATAI-M0207」

あさみ あさひこ
阿佐見 昭彦

大理石の白色が、その存在を打ち消そうとしているのでしょうか。頭部が浮遊していて、表情の無い目は虚空を見ているようです。その目は真実に何を見ようとしているのでしょうか。不思議に物語性が高く、同時にその表現力、技術力の高さに、今後の作品にも大いに期待が持てます。

・埼玉県美術家協会賞

ふたば
「双葉」

もりした まさひろ
森下 聖大

一見、L字アングル2本を溶接して制作された形に見えますが、L字アングル特有の内側コーナーの丸みがありません。この作品は4枚のフラットバーを溶接して、外側、内側の稜線にまで神経を注ぎ、制作されたものと推測できます。

正面のフォルムは題名の通り植物が成長する緩やかで、優しい広がりを感じますが、側面からのフォルムは研ぎ澄まされた日本刀のような美しい反りを持っています。優しさと緊張感のバランスが取れ、命の尊さを感じさせる作品です。

この作品は、このサイズで完成はしていますが、5m以上で制作し野外に設置したら周りの空間（景色）をその表面に取り入れ、天空に伸びていく命を象徴する大作になると思います。

・読売新聞社賞

「少女」

曾根田 誠太

若々しく量感を感じる作品です。高校生が創ったそうです。とても初々しい作品です。

ここ数年高校生の等身像や大作が増えましたが、長く彫刻を続けるには、頭像程度の大きさを基礎力を十分身に付けてから、大学などで勉強すると良いと思います。

・埼玉県美術家協会会長賞

「生長の樹」

清水 啓一郎

昨年の埼玉県教育委員会教育長賞に続き本年もすばらしい力作です。量感、構成力はもとより、抽象、具象どちらも出来る力を持っています。今後ますますの努力とすばらしい作品を期待します。存在感のある大きな力作は、題名のとおり生命感を感じる作品に仕上がっています。

・高田誠記念賞

「モラン ～戦士～」

中村 和彦

作者はかねてより人体像を出品しています。今回は、マサイ族の戦士のようです。一步間違えれば人形になりそうなところで、着色や細部の装飾に負けず、人体の構築的な把握に基づいたしっかりとした造形がなされています。人体の細部までこだわって制作された力作です。